

# その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.067

田中  康夫

たなかやすお ● 56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。  
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。  
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブ  
ログ】 www.nippon-dream.com/



## 「訪れたら死ぬ」と噂される 不法都市ナポリの暗部

### 今週の逸品



### マルゲリータ 1650円

ヴェスパが狭い路地を走り抜け、頭上には長尺の物干し竿に万国旗の如く洗濯物が吊り下がる下町：スバッカナポリには、ソッテラネアと呼ばれる巨大地下都市が存在する。古代ギリシヤ人が神殿を築き、その後、下水道として19世紀まで。第二次大戦中は防空壕で活用された空間は現在、一般公開中。山手通り沿いの聖地と崇め奉る向きも多い時空で行列の際の、これも前菜的逸話。

【ピッツェリア エトラットリア ダイーサ】東京都目黒区青葉台1-28-9 ☎03-5768-3739  
営業11:30~14:00、17:30~23:00(LO22:00) 定休:月曜 火曜昼 <http://www.da-isa.jp/>

illustration by Hajime Anzai



寧ろナポリ近郊を訪れて死ぬ」と換言すべきかも知れません。「帰れソレントへ」のカンツォーネで知られるソレントを半島の北側に擁する、ナポリ湾に突き出たアマルフィ半島は近時、日本でも認知を高める保養地。別けてもサラセン文化の影響を建造物に残すサレルノからチエターラ、アマルフィを経てボジターノへと至る南側の九十九折りは、恰も「天空の楽園」へと続く道程です。

世界最古の医科大学が存在する、半島の根付けに位置するサレルノからサレルノ湾沿いに岩肌を西進するとチエターラ。コラトゥーラ・デイ・アリーチ・デイ・チエターラの呼称で知られる辛味を帯びた魚醤を家内制手工業で生産する寒村です。アラブシチリア様式の大聖堂が構えるアマルフィを過ぎ、ボジターノの街の直前、イル・サン・ピエトロ・デイ・ボジターノが出現します。断崖先端の小さな祠が、「天空の楽園」への入口。昇降機で絶壁を下った中程に食堂が、更に海辺へと下る途中に客室が存在し

ます。「東京ペログリ日記」にも幾度となく登場した、全世界で垂涎の的なホテルです。「ナポリを見て死ぬ」とは元来、風光明媚なナポリを訪れずに死ぬでは、生きて来た甲斐も無い、の意味合いです。が、冒頭で言及の如く、風光明媚を味わうなら「ナポリ近郊を訪れて死ぬ」であり、100万都市ナポリは遙か前から「ナポリを訪れたら死ぬ」と事情通の間で認識されているのです。灰燼に帰したポンペイと同じヴ

エスヴィオ火山の裾野に位置するからではなく、シチリアのコーサ・ノストラと並ぶ一大マフィア勢力のカモツラが牛耳るナポリは、不法都市の暗部を抱えるからです。40力国余りで翻訳され映画化された俊英口ベルト・サヴィアーノ著『死都コモラ』は、犯罪企業集団としての想像を絶する跳梁跋扈振り

を活写しています。文庫も含め書籍は河出書房新社から、マツテオ・ガツネーロ監督の映画DVDは紀伊國屋書店から発売されています。2008年に市街地に未回収の廃棄物が散乱し続けた一件を、記憶に留める向きも居るでしょう。カモツラは、賭博・売春・麻薬・運輸・港湾・金融に加え、清掃・産廃を一手に差配しているのです。入念な取材に基づく作品は、中国人労働者の屍体が蓋を閉め忘れたコンテナから船上へと落下する光景で幕を開けます。ナポリ港で水揚げされた中国製の模造品が如何なる経路で欧州各地へ流通し、著名なイタリア銘柄の意匠を如何なる手順で非合法生産しているか、中国系の地下組織と繋がる深い闇を解き明かします。シカゴ・マフィアをも凌駕するナポリの裏面を露知らずサミットに出席したビル・クリントンが来店したのを契機に「プレジデント」を店名に冠した一軒で修行を積んだ人物が焼き上げるピザを食す際、それは隠し味の逸話です。